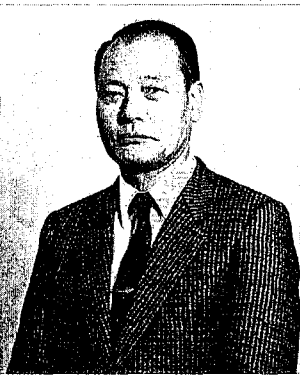


# 豊かで充実した老後を 漁業者年金

ひとりとは万大のために、万人はひとりのために

このたび、九月三十日をもって会長を辞任されました炭谷前会長



のあとをうけて、不肖私がかからず兵庫県の漁業連合会に選任され

のあとをうけて、不肖私がかからず兵庫県の漁業連合会に選任され

## 木下会長就任のご挨拶

信漁連では、炭谷会長の選考を行った。審議の結果、全員一致をもち、会長に木下清氏(信漁連副会長・津尾山港漁協組合長)を選任した。なお、木下清氏の会長就任は、十月一日で、直ちに後任会

## 兵庫県信漁連会長に 木下清氏就任さる

「現在、各地で海の環境悪化が問題となつていますが、それを良い方向に向けられるには、常に大勢の人々が関心を持つていなければなりません。本大会がその契機となれば、この大会の意義も非常に深く

「現在、各地で海の環境悪化が問題となつていますが、それを良い方向に向けられるには、常に大勢の人々が関心を持つていなければなりません。本大会がその契機となれば、この大会の意義も非常に深く

「現在、各地で海の環境悪化が問題となつていますが、それを良い方向に向けられるには、常に大勢の人々が関心を持つていなければなりません。本大会がその契機となれば、この大会の意義も非常に深く

「現在、各地で海の環境悪化が問題となつていますが、それを良い方向に向けられるには、常に大勢の人々が関心を持つていなければなりません。本大会がその契機となれば、この大会の意義も非常に深く

「現在、各地で海の環境悪化が問題となつていますが、それを良い方向に向けられるには、常に大勢の人々が関心を持つていなければなりません。本大会がその契機となれば、この大会の意義も非常に深く

「現在、各地で海の環境悪化が問題となつていますが、それを良い方向に向けられるには、常に大勢の人々が関心を持つていなければなりません。本大会がその契機となれば、この大会の意義も非常に深く

「現在、各地で海の環境悪化が問題となつていますが、それを良い方向に向けられるには、常に大勢の人々が関心を持つていなければなりません。本大会がその契機となれば、この大会の意義も非常に深く

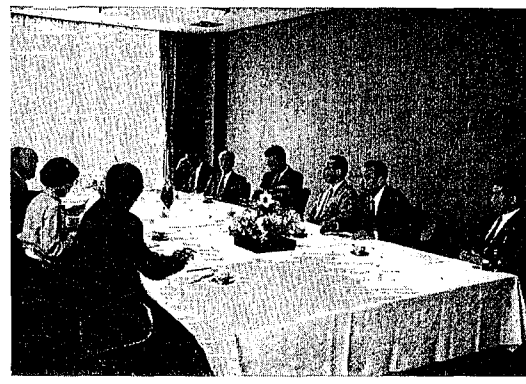
# 兵庫県漁業信用基金協会 臨時総会開催

## 理事長に石川農林水産部長を選任

兵庫県漁業信用基金協会は、転勤、移動により、理事二名の欠員が生じ、特に、吉田理事長の退任により理事長が欠員となつたため、去る十月十七日、臨時総会を開催し、理事の補欠選任を行いました。



観望、引き続きヒラメ、クロソイ、スズキ、ハマグリの稚魚・稚貝、及び関係者の総勢六十七名が参加した。



一日目は、明石浦漁協において昼市を視察し、漁業に関する実情を視察した。二日目は、あわびの種苗生



## 西オーストラリア州 漁業視察団来県

兵庫県の姉妹州である西オーストラリアより漁業視察団が去る十月三日より二日間にわたり、当県の漁業実態を視察し、今後の交流方法についても協議するなど友好関係を深めました。

一行は、州政府渉外主任官のマーク・スタンセル氏、同漁業管理官ピーター・ミリングトン氏そして同州の漁業協議会会長ジョン・キール氏の3名で、本年一月に同州を訪問し漁業交流を進めていた

のり研究所を視察し、産、また、オーストラリアではほとんど実施していないウニ、フグ漁業に関心をもった様子であった。

一方では県水産課も交え、今後西オーストラリア州と本県漁業系統団体がどのような交流をしてゆくかについて話し合い、双方で協力できる事項等についての意見交換が行われるとともに、今後も交流を深めてゆくことを確認した。



# 淡路地区漁協婦人部連合会

## バレーボール大会

婦人部相互の親睦を図るため、去る十月十五日、兵庫県立淡路勤労センターに於いて、第五回淡路水交会長杯 争奪淡路地区漁協婦人部連合会バレーボール大会が開催されました。



### 海区漁業調整委員会だより

十月二十一日  
但馬海区漁業調整委員会委員協議会を但馬水産事務所会議室で開催  
昭和三十五年の間に、富山、福井、兵庫の三県共同で実施される、ホタルイカの資源生産、資源増進、漁業実態調査等の概要について試験研究室内から報告を受け、意見交換がなされました。

今回の大会には、島内各地より十七のチームが参加し、優勝を目指して熱戦が繰り広げられました。試合は練習の成果を発揮し、目を覚ますようなラリーなど好プレーもしばしば見られ、各チームとも回を重ねる毎に腕を磨き、技術もレベルアップしてきています。また、今大会では、ユニフォームを新調したチームも多く、艶やかな試合模様となりました。

しかし、この一方では、実力があっても発揮しきれず敗退したチームや、失点数の差で惜しくも涙をのんだチームなどがありました。精一杯プレーした気持ちが表われたか、さわやかな顔をしていました。

熱戦のうち大会は終了し、今大会の試合結果は次の通りです。



- 優勝 福長漁協婦人部 チーム
- 準優勝 丸山漁協婦人部B チーム
- 三位 飯屋漁協婦人部 チーム
- 四位 阿那賀漁協婦人部B チーム

## マダイ標識放流

兵庫県を代表する魚で大規模な放流が進められているマダイですが、今年度も標識放流を実施したのでその概要をお知らせします。

マダイの漁獲量は、県瀬戸内海区では昭和四十六年に四十八トンにまで減少しましたが、昭和六十二年には四七九トンまで回復しています。ただこの増加は〇・一才魚によるものがほとんどで、資源的にはなお不健康な状態であると考へら

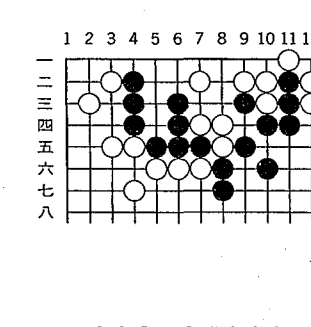
るに挑戦。本番さながらの審査に参加者は緊張気味でしたが、後の講評では「みなさん日常業務で鍛えられており、よくまとまっています」と、お墨付きを受けました。

審査の結果は、但馬日高農協の小林順子さんが最優秀賞を受賞。十一月十八日の全国コンクールに兵庫代表として出場することになりました。

生活協同組合 生協協定制四十周年記念 兵庫県生協大会 開催  
一九八八年度兵庫県生協大会を、十月十三日神戸文化センターホールで開催しました。

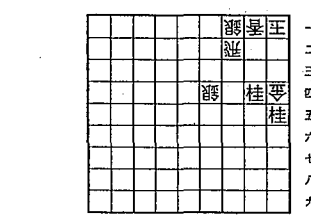
## 詰碁

九段 橋本 宇太郎  
黒先手。黒好手順で生きて下さい。(考慮十分初級程度)



## 詰将棋

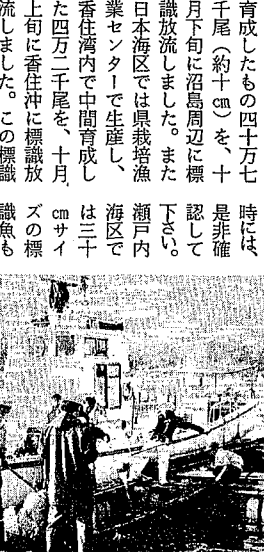
八段 佐瀬 勇次  
角をうましく使う手。(考慮十分二級程度)



付作業は、地元市町や漁協をはじめ多くの方々に協力していただき、標識方法は瀬戸内海区は従来どおり左腹ヒレ抜き、日本海区ではアンカータグと背ヒレ棘カッターの二種類です。(県水産課)

その後、生協協定制四十周年記念・兵庫県知事表彰が県下の六生協に、生協功労者表彰(兵庫県知事感謝状と兵協連会長表彰)が二十九人の役員に贈られました。

続いて組合員活動報告では、神戸医療生協の入浴サービス・ボランティアグループと、灘神戸生協・西明石運営委員会の手話グループが、それぞれ寸劇を



この調査は放流効果をはかり、今後の栽培漁業の発展に是非必要なものである。漁業者の皆様のご協力をお願いいたします。

は、組合へ届けて下さる。この調査は放流効果をはかり、今後の栽培漁業の発展に是非必要なものである。漁業者の皆様のご協力をお願いいたします。(県水産課)

水試ノート

マコガレイについて

(二) 生育場としての特性

今回はマコガレイ稚魚の成育場としての海津について報告します。カレイ類の増殖場の計画が持ち上がり、その調査の依頼を受けた時、正直なところハタと困ってしまいました。その理由は、まず第一に全国的に見ても、カレイ類の増殖場の例はほとんどなく、確立された増殖手法が全くないこと。そして第二にカレイ類が砂泥域を生活の場としており、魚礁など構造物との関わりが不明な点でした。そこで調査方針を樹てる前に現地の漁業者の方々にカレイ類の生息場所について聞き取り調査を行いました。そしてこの調査の中で彼等から海津という言葉を聞かされました。それによると、海津というは、砂地の中に直径一〜二m位の転石が点在しているような場所のことであり、なおこの転石には海藻が生え、このような場所にはカレイ類が多いとのことでした。では何故この海津にカレイ類が多いのかを考えた時、次の仮説が頭に浮かびました。「海津は砂地を基に（これはカレイ類が砂に潜るという生態からその住み場を提供している）、適当な間隔で転石が存在していることは、そこに繁殖する海藻などを通じて餌料生物が供給され、カレイ類の生息密度が高くなっている」というストーリーでした。もし、このようなストーリーが成り立つならば、単純な砂浜域に手を加え、人工的な海津を造成してやればカレイ類（マコガレイ）の生息密度が高まり、生産力が向上するのではないかと考えました。

食性(ペントスの分布) 今回の増殖の具体的な目標としたのはマコガレイの幼稚魚です。そこでまず、それら幼稚魚が何を食べて生活しているのかを調べました。図1にその結果を示しました。砂地に産みつけられたマコガレイの卵は十日ほどでふ化し、約一ヶ月程度海面上近くを漂っています。全長1cm位になると大体水深一〇m以浅の浅海域に着底します。時期的には二月頃です。着底して間もない全長一・一〜一・三〇cmの稚魚は主に動物性プランクトンであるコペポダを主食としています。その後成長するに従って小型の甲殻類を多く摂るようになり、全長が五cm以上になると、多毛類(ゴカイの類)を主食とするようになります。動物プランクトン以外のこのような生物をまとめてペントス生物と呼んでいます。それでは海津の内部のペントス生物の分布はどのようなものか？ 津名郡東浦町、釜口漁港の北側に海津域(水深三〜四m)がありますが、この中の転石と転石の間(約七m)の砂を等間隔に五地点採集し、その中に存在するペントスの量と、有機物量の指標であるCODの値を調べたのが図2です。これによると、CODの値は転石の傍で高く、転石間の中央で低くなっています。おそれか、転石の傍には海藻破片などの有機物が多く落下するためでしょう。一方マコガレイ幼稚魚の主食である小型甲殻類と多毛類の分布を見てみると、転石間の中央部で高くなっています。小型甲殻類や多毛類は海藻破片などの有機物も餌として生活していますが、おそらく別の適当な有機物があり、CODとは逆の分布になっているのだらうと考えられます。ところで、このような餌料生物の分布は、増殖場の造成にとってどのような意味を持つのでしょうか？ 海津の造成にあたって

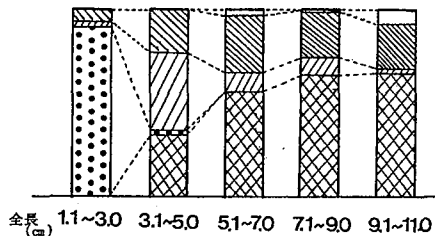


図1 マコガレイの成長段階階級食性

一つの大きな問題は、構造物の間隔をどのようにとるかということがあります。先の結果から言いますと、あまり構造物を密に置くと、かえって餌料生物の発生のとってマイナスになると考えられます。では適当な間隔は？ ということになりました。もう少し検討が必要ですが、いずれにせよ転石間の餌料生物の分布はどうか？ ドーナツ状の濃淡を持つているようで、適正な配置を行うことにより増殖効果が期待できそうです。

一回調べました。それにより、五月に比べて海津域の方が多くなり、砂浜域の方が多くなりました。一定の傾向はみられませんでした。これはおそらく両地域で環境の違いが影響しているのではと考えられます。ただ、四月から五月にかけては、マコガレイの着底初期に限って言いますと海津域の餌料生物量が圧倒的に多くなっています。海津域と砂浜域の餌料生物量の比較について、

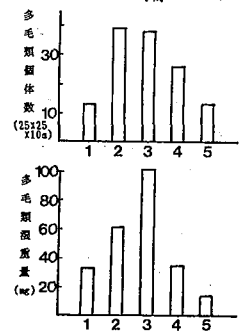
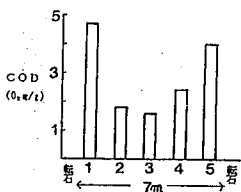


図2 海津域の転石間におけるペントスとCODの分布 (1987.8.4)

着底初期のマコガレイ稚魚は餌料条件の面では海津域の方が良いです。しかしこの考え方には一つ疑問があります。というのは、海津域の餌料条件がもとより良いのであれば、当然着底初期から多くの稚魚が海津域にも分布してよいはずですが、そこで次のような考え方が出てきます。害敵生物の問題です。潜水

調査の際には海津域ではカサゴ、アイナメなど大型の魚が観察され、一方砂浜域ではハゼやネズボなど小型の魚が主体です。このことはより小型の魚が主体であること、これが二つの理由が考えられます。一つは餌の問題です。稚魚は成長するに従って餌の要求量は多くなります。そこでより餌料条件の良い海津域へ移動するという考え方は、しかしこの考え方には一つ疑問があります。というのは、海津域の餌料条件がもとより良いのであれば、当然着底初期から多くの稚魚が海津域にも分布してよいはずですが、そこで次のような考え方が出てきます。害敵生物の問題です。潜水

いてはもう少し分析検討する必要があります。(海津域におけるマコガレイ稚魚の出産状況) 海津域にはマコガレイが多いという漁業者の話は本当なのでしょうか。実際に増殖場を造成する場合には聞き取り調査の結果だけで行きません。そこで毎月一回スケューパー潜水によりマコガレイ稚魚の生息密度を調べてみました。図3に海津域と砂浜域におけるマコガレイの生息密度の変化を示しました。まず○才魚の生息密度をみてみますと、砂浜域では五月に最高値を示した後、徐々に低くなり、九月の調査では○才魚はみられません。一方海津域では五月以降に徐々に密度が高くなり、七月以後は砂浜域よりもはるかに高い密度で経過しています。また全般的に海津域の方が砂浜域よりも大型の稚魚が生息するよう

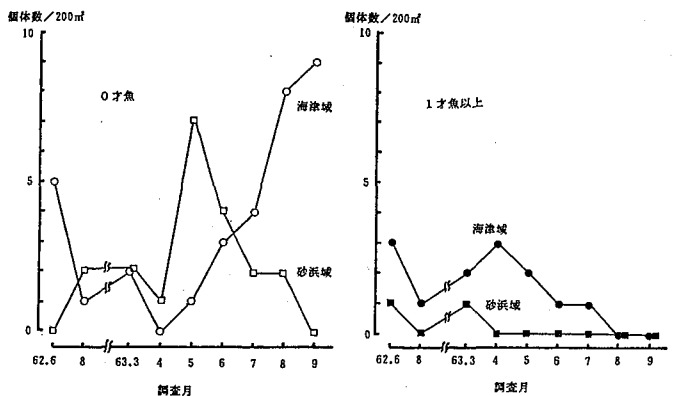


図3 カレイ類(マコガレイ) 生息密度の変化

